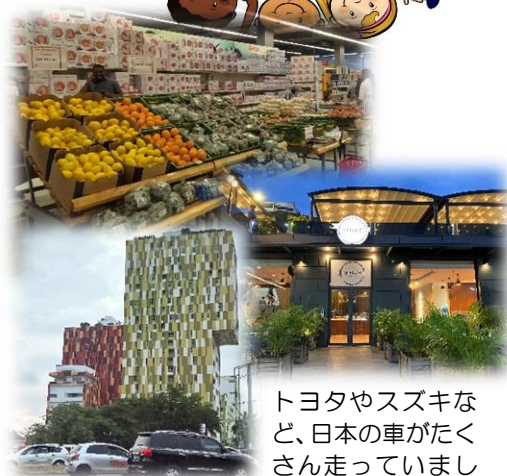


## ガーナに来て、もうすぐ1カ月！

インディー！エウェ語でおはよう！ガーナに来てもうすぐ1カ月が経とうとしています。日本は暑い日が続いていると思います。ガーナは1年中暑い国ですが、今は1年の中で一番涼しいと言われています。だいたい27度前後です。

ガーナについてからは、首都（日本でいうと東京）で2週間過ごしました。開発途上国と聞くと、どんなイメージがありますか。なんと首都はショッピングモールもあって栄えていました！おしゃれなカフェもあるし、高いビルもあります。びっくりです！



トヨタやスズキなど、日本の車がたくさん走っていました。なんだかほころしいです！

## 先生が住むところは…？

その後、先生は活動する場所へ移動しました。首都からバスを乗り継いで5時間…。先生が住むところはボルタ州のアカチノースをいうところ。なんと歩いて15分で隣の国のトーゴへ行けてしまうくらい、ガーナの端っこにいます。首都は道路がコンクリートでしたが、アカチノースはまだまだ赤い土の道路。歩いていると黒いサンダルが赤褐色になります。もちろん、背の高い建物などはありません。

その町に、外国人は先生だけ。とても目立つので、歩いていると「ヤブ！」と叫ばれます。「ヤブ」とは肌の白い人に対して使う言葉で、先生はよそ者なわけです。差別の言葉であるのだろう。けれど、小さい子どもたちが「ヤブ～！」と手を大きくふって飛び跳ねています。「あれ？なんか喜ばれている？」先生は手をふり返し、「インディー！」と言うようにしました。

アカチノースに来て、2日目、町を探検していると、先生のそばですっとコソコソ話している少年たち。「サッカーボールを買ってよ。」と言われました。残念ながら、彼らにとって肌の白い私たちは、お金持ちに映って見えるのです。「買うことはできない。」と伝えました。その後もコソコソしているので、先生は自己紹介をして、「サッカーできる？」と聞きました。すると彼らの表情が輝きました。「こいつ、キーパーうまいんだぜ！」「おれたちはプレーヤーさ！」「こいつらは双子なんだぜ！」「一番うまいのは…」と話しました。サッカーするところを見たいとお願いすると照れくさそうに、プレーし始めました。裸足で、小さなプラスチックのサッカーボールを蹴る彼らはとても楽しそうでした。靴を履いて、指導者がいて、ちゃんとしたボールを蹴ることができたら、彼らはみるみる強くなるのだらうと思いました。それからというもの、先生と会うたび、離れていても大きく手を振ってくれるようになりました。恥ずかしがらずに話しかけてよかったです。



とてもんびりしています。



なんだか「ヤブ」といわれても嫌な気持ちにならないのはこの子たちのおかげです。



サッカー少年たち！9歳から12歳の子たちです。足は棒のように細く、でもどこかたくましい…。